

## 認知症を取り巻く現状から ー 認知症サポーターの必要性 ー

木村 孝子

### 要 旨

日本の長寿社会は、わたしたちにさまざまな変革を迫ってきます。既存のシステムやサービスが効果的でなくなり新しいシステムを構築しなければならない等、身近なところで、その必要性が高まっています。

認知症については、昔から知られている疾病ではありますが、最近の寿命の延長とともに増加傾向にあります。わが国の高齢者対策では寝たきり防止が叫ばれ、生活習慣病にまつわるリスクを減らし脳血管障害や虚血性心臓病を減少させるために予防教育・指導が図られてきました。その成果はわたしたちの意識改革をもたらし、自分の健康は自分で守るという認識になってきつつあります。しかし認知症についてははっきり原因が究明されていない部分も多く、現在では効果的な治療法が確立されていません。そのために対症療法は重要な意味を持っています。

今後、認知症は高齢化率の上昇とともに増加していくと思われます。予防とともにお互いの助け合いが重要です。認知症について理解を深めていき安心できる環境づくりをし、認知症になっても安心して暮らせるようにサポーターの育成は急務となっています。

**キーワード：**長寿，認知症，サポーター，相互扶助，安心な環境づくり

日本が世界の最長寿国となり久しい。平均寿命の伸びは喜ばしい事である。日本は出生率の低下とあいまって超高齢社会を形成してきた。後期高齢者の増加と共に健康問題は疾病の構造的変化をもたらし、有病は平均して3病とも4病ともいわれている。特に老年病といわれる認知症や脳血管障害などは増加傾向にある。このような状況から健康長寿が強調され取り組みが進められてきた。高齢者の場合は健康問題が即生活問題に波及する。そのため介護保険制度に見るように、保険・医療・福祉の統合は必然的に生み出されてきた

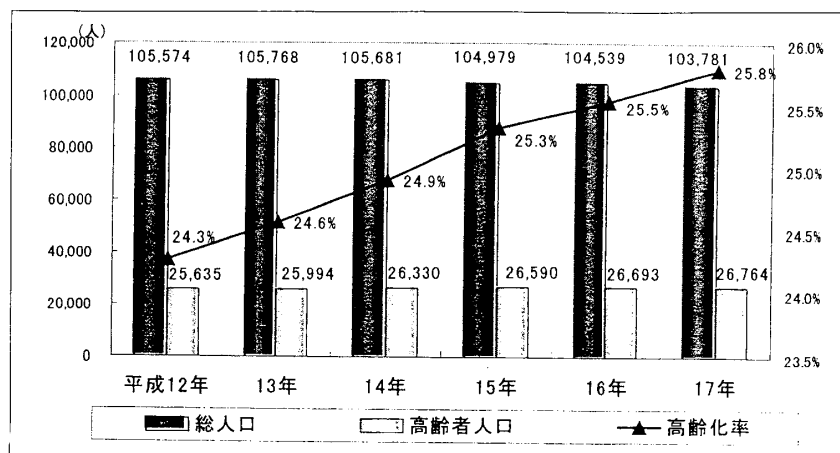
といえる。後期高齢者の増加は同時に認知症を持つ人の増加となった。ここではS市の現状を概観し、対策について考察する。

### I S市における高齢者の状況

S市は人口103,781人（平成17年）の街である。高齢者人口の推移を見ると平成12年の105,574人から平成17年には103,781人となっている。（図表1）

表から見ると後期高齢者の急激な増加傾向が上げられる。平成15年からは65～74歳までの前期高齢者と逆転現象が生じている。（図表2）

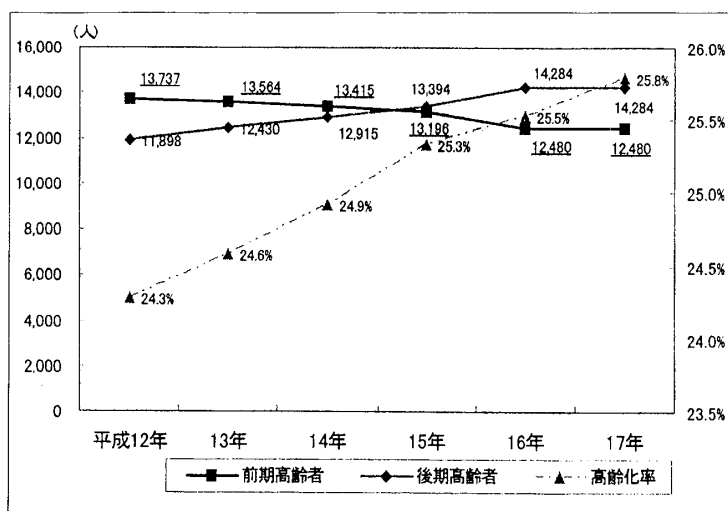
また、地域別にみると高齢化率の差が著し



※平成15年以前の数値は、合併前の市町村人口の合計値

資料：住民基本台帳人口

図表1 総人口と高齢化率の推移



資料：住民基本台帳人口

図表2 前期・後期別高齢者数と高齢化率の推移

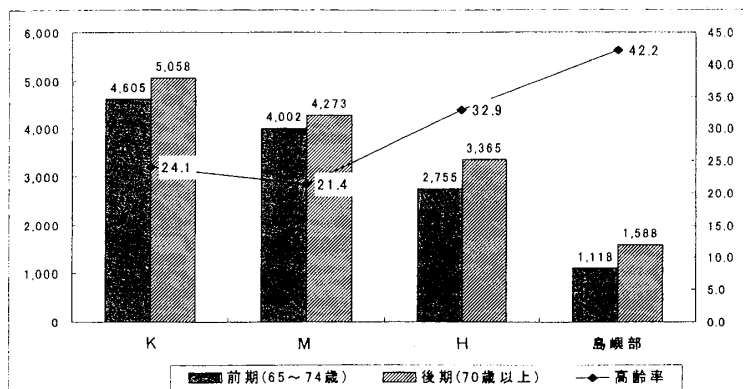
く、特に島嶼部などでは、40%前後にも上っている。(図表3)

このような後期高齢者を中心とする高齢化傾向は今後も引き続き進行し、コーホート法(センサス変化率法)による推計結果では平成26年には高齢者人口は26,590人になるものと見込まれている。このうち後期高齢者は全体の6割近くに当たる15,442人に上る。(図表4)

また平成16年度の一般高齢者を対象とした

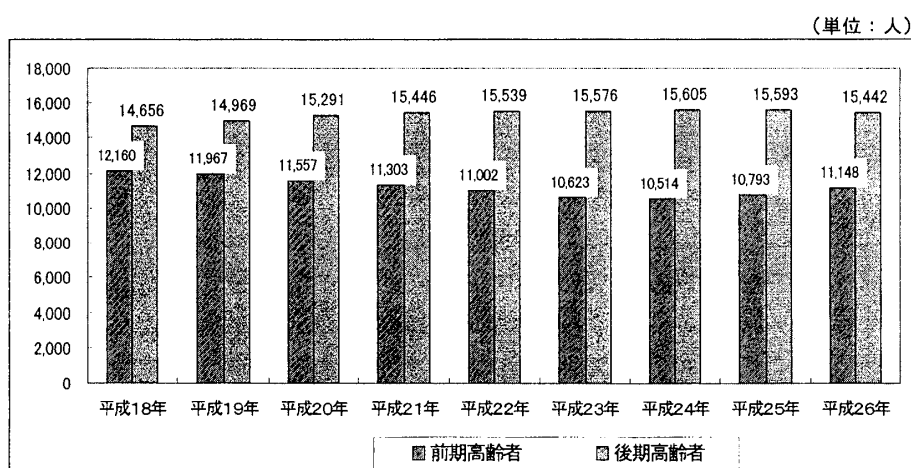
アンケート調査によると、世帯類型別では「調査対象の本人と65歳以上の配偶者のみの世帯(高齢者夫婦世帯)」38.4%と「本人だけの単身世帯(高齢者ひとり暮らし世帯)」(26.9%)の占める割合が極めて高い状況にある。(図表5)

## II S市における平成18年度から20年度老人福祉計画



資料：住民基本台帳人口

図表3 地域別にみた高齢者数と高齢化率の状況



図表4 前・後期別にみた高齢者人口の見通し

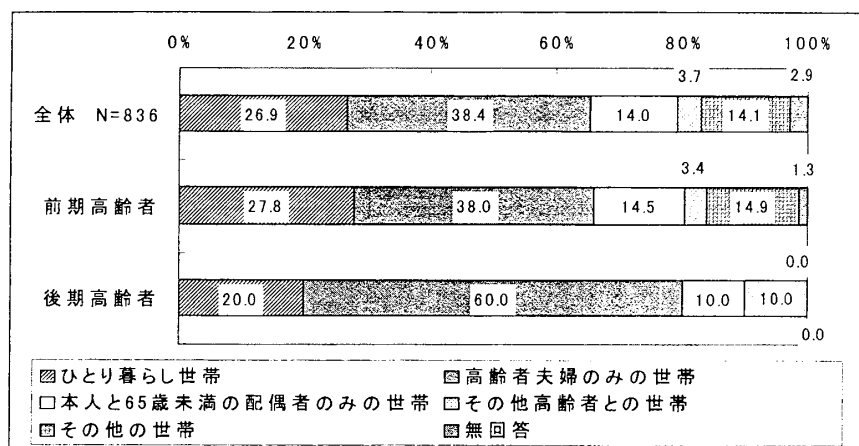
本計画は老人福祉法（昭和38年法律第133号）および老人保健法（昭和57年法律第80号）に規定する老人福祉計画並びに、介護保険法（平成9年法律第123号）に規定する「介護保険事業計画」に基づき策定されている。

#### 1) 計画策定の背景

平成12年4月に施行された介護保険制度は、介護給付費の急激な増加を背景に、将来にわたる持続可能な運営を確保していくことが大きな課題となってきた。また、今後を見通したとき、人口規模の最も大きい「団塊の世代」（昭和22年～24年生まれ）の全てが平成27年ま

で高齢期を迎えることとなる。

S市は人口が微減傾向を続ける中で、65歳以上の高齢者人口は確実に増加を続け、住民基本台帳人口でみると平成12年の25,635人から平成17年には26,764人へと年率0.9%（総人口は年率-0.4%）の伸び率を示している。これに伴い、高齢化率は平成12年の24.3%から平成17年には25.8%と全国平均を上回る水準に達している。これまでの高齢者施策の基調は、介護保険制度の導入をはじめ、何らかの援護や介護が必要になっても、生涯を通じて安心して暮らし続けることができる仕組みづ



図表5 高齢者世帯の現状 (一般高齢者アンケート調査)

全体見込み量

(単位：人、円／年)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
必要量	1,120	1,826	2,244	2,244	2,244	2,352
給付費	245,469,843	399,125,178	497,168,371	497,168,371	497,168,371	521,946,256

図表6 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護

くりに視点が置かれていた。一方で前述のように超高齢社会へと進行する中、高齢期は更に長くなってくる事が見込まれ、健康で生きがいをもって過ごせることが課題となってきた。高齢者が住みなれた地域で生きがいを持って暮らせるために環境作り、自立した生活を支える施策・サービスの検討、社会参加活動に参画できる体制作りが望まれる。

## 2) 老人福祉計画の重点課題

- ①生涯を通じた健康づくりと介護予防システムの構築
- ②地域を支える一員としての高齢者の積極的な社会参加の視点
- ③介護保険制度改革に対応したきめ細かな介護保健サービス提供基盤の整備
- ④認知症になっても安心して暮らせるまちづくり

- ⑤地域で支えあう福祉の推進（地域福祉の推進）をあげている。ここでは④と⑤について述べる。

後期高齢者の増加と共に認知症を持つ人が増えている。(図表6)

認知症対策には早期治療と認知症高齢者への適切な対応、危険防止の見守りネットワーク構築などが急務とされている。市民に広く認知症に関する広報や情報提供の必要がある。また、高齢者が抱える様々な生活課題にタイムリーに対処して行くためには公的なサービスだけでなく市民参加による支えあいも構築して行かなければならない。

## Ⅲ S市における認知症高齢者対策

認知症高齢者が尊厳を保ちながら健やかに生活が送れるよう支援し、介護する家族も安

心して社会生活を営む事ができるよう早期発見、早期治療、早期ケア、保健・福祉・医療の総合的な支援体制の整備がすすめられている。また、市民の啓発に努めることなどを政策の方向としてうちだしている。

個別事業では、1 認知症予防対策の充実として、ア 相談窓口の充実…認知症についての相談窓口が地域包括支援センターにおかれていることを広く周知し、相談体制の充実を図る。イ 認知症についての知識の普及・啓発。ウ 認知症高齢者の早期発見と対応。2 住宅生活の支援…適切な居宅サービスと外来治療等を受けられる体制の整備、問題解決のための支援体制、緊急時の医療・介護供給体制の整備、地域福祉権利擁護、成年後見制度の啓発・活用、徘徊時の対応など。3 権利擁護の取り組み、…認知症高齢者の生活、権利、財産を守るために制度の周知を図る。

#### IV S市内の認知症の人の現状

S市では行方不明者の尋ね人放送がある。ほとんどが認知症を持っている人ではないかと思われる。臨地実習で学生と共に家庭訪問すると家族の適切ではない対応に心痛める事もある。少しの知識があればかなり適切に対処できると思われるのだが。市の施策が早期に実現される事を望む所以である。また最近では高齢者の虐待が増加している。その背景に8割以上に認知症があるといわれる。認知症を発症したときに、まず本人が気づく。“なんとなくおかしい”“思い出せない”，そしてそのうちに家族がおかしいと気づき始める。“同じ事を何回も繰り返す”“火の後始末ができない”“水道の閉め忘れ”“買い物に行き計算ができない”等々。この時期が本人にとっても家族にとっても最もつらい時

期である。

この時期をなるべく短くする支援・介入が必要である。家族に指導し、エンパワメントするだけで、認知症の人は混乱の中から救われる。自分は何かおかしいと感じ始め、記憶が失われていく中で不安が増幅されていく。この不安を安心に向かわせることが第一歩である。S市は超高齢社会に突入し、後期高齢者が前期高齢者を上回った。これから総人口は微減傾向にあるが認知症の高齢者は増加していくと思われる。フォーマルなサービスだけでは高齢者の安心・安全を守ることにはできない。インフォーマルなケア、(ここではボランティア)が補完的に活動することにより、本人はもとより、家族の安心をより確実なものとするができるだろう。少しでも長く住み慣れた所で、なじみの人と一緒に暮らせるようにできないだろうか。

#### V 認知症サポーターの育成に向けて

認知症になっても少しの支援があれば、一人暮らしであっても、住み慣れたところで少しでも長く暮らしていくことができる。このことを是非可能にしたい。そのためにはボランティアとして活動できる人達をたくさん育てる事である。その一環として学生に認知症について知識をもってもらい、必要とされた時にさっと手助けできるサポーターになってもらう。その知識はやがて自分や周りの人を助ける源となるだろう。そして一人一人がその力を持てばS市に優しさが広がっていくことが期待できる。これからは認知症の人に優しく適切な対応ができることと、認知症の予防に向けた取り組みが更に強化されなければならない。

#### 引用文献

- 1) 鹿児島県薩摩川内市市民福祉部：老人保健福祉計画高齢者をめぐる現状と見通し，薩摩川内市老人保健福祉計画・第3期介護保険事業計画，2007，p7～10，p48～53，p74～75，p101
- 2) 高木安雄他：家族・社会の観点から，高齢者ケアをどうするか，中央法規，2002，p 22
- 3) 薩摩川内市介護認定の統計資料 平成19年9月分

#### 参考文献

- 1) 岡本祐三：デンマークに学ぶ豊かな老後，朝日新聞社，1993
- 2) 呆け老人をかかえる家族の会編：痴呆の人の思い，家族の思い，中央法規，2004
- 3) 呆け老人をかかえる家族の会：本人の思いとは何か，クリエイツかもがわ，2005
- 4) 井村美壮，相澤譲治編：高齢者福祉の基本体系，勁草書房，2004
- 5) 古谷野巨，安藤孝敏編：新社会老年学，株式会社ワールドプランニング，2003

From present state which surrounds the recognition disease  
—The necessity of recognition disease supporter—

Takako Kimura

Department of Nursing, Faculty of Nursing and Nutrition,  
Kagoshima Immaculate Heart University

Key Words : longevity, dementia, supporter, mutual aid,  
environmental preparation the security

Abstract

He longevity society of Japan requires the innovation which is various for us. But the service must do the construction, etc. Heighten the necessity in respect of existing system and not effective and new system in the familiar place. Though on the recognition disease, it is a disease known since the ancient, there is it with the extension in recent life increasingly.

In old people countermeasure of our country, it cried for the bedridden prevention, and education guidance prevented in order to reduce the risk which is related to the lifestyle habit illness, and in order to cerebrovascular disorder and ischemic heart disease decrease, were attempted. The health of the self the result brings about our reform of sense, and it becomes the recognition of protecting in the self. However, on the recognition disease, the part that clarifying cause is not investigated is also abounding, and at the present, the effective therapy has not been established. Therefor allopathy has very important.

In the future, the recognition disease seems to increase. The cooperation of the each other is important with the prevention. The rearing of supporter is urgent in order to live, by feeling easy, even if the understanding is deepened on the recognition disease, and even if confirming environmental preparation is done, and even if it becomes the recognition disease.

---